

(3) 大方中学校の防災教育について

宮川 昭二 (黒潮町立大方中学校 先生)

皆さん、こんにちは。黒潮町の宮川といいます。よろしくお願ひします。

大方中学校の防災教育概要ということで、6項目を用意しました。『はじめに』ということで概要と、それから以前どういうふうに使っていたか、これまでの成果と課題。そして、現在どういう組織で動いているかと、各学年の取り組みで今後の防災教育について。今使っている成果というよりは悩んで、どういふふうに使って使っているのかを報告して、問題提起したいと思ひます。

黒潮町は高知県の西部の方にあり、大方中学校には、171名います。そして、25名教職員が働いています。皆さんも来て頂いてわかるように、大方中学校は津波が来れば完全に沈むところなんです。

以前、黒潮町は年6回以上の避難訓練をやることご報告させてもらいましたが、『遠足』においてとか、『小・中・高の合同』で700人位で避難訓練をやっています。そういうものを6回は使っています。ただこれは、避難訓練を中心にした知識の防災教育であって、ひとつひとつがあまり繋がってなかったんじゃないか、点で使っているんじゃないか、ということで見直しを今年使っています。

高知県が副読本『命を守る防災ブック』をだしています。こういうものを使って防災教育を使っていますが、1時間の授業をやって、じゃあ繋がっていかっていったら、そうでもなかったんじゃないかという反省があります。

そして成果として、避難訓練を重ねて避難に対する意識が高まって、そして小・中・高の合同で使っていましたので、当然連携はできていったんですが、1年生から3年生まで系統的な防災学習・防災教育はできていたのかなど。それからその防災教育をする組織というか、研究などが組織としてできているのかなということが課題としてあげられます。

そして、それを見直すための組織として、学校の中で防災教育も含めて、人権・キャリア教育を推進する『夢実現』、その他『学び』、『優しさ』、『イベン



宮川 昭二 (黒潮町立大方中学校 先生)

大方中学校の『防災教育』発表内容

- 1 はじめに 学校の概要
- 2 以前の『大方中防災教育』
- 3 これまでの防災教育の成果と課題
- 4 『防災教育』の組織について
- 5 各学年の具体的取り組み
- 6 今後の『防災教育』について

2. 以前の『大方中防災教育』

年6回の避難訓練(点の防災教育)

- 【1回目避難訓練】遠足における避難訓練
- 【2回目避難訓練】保小中高合同訓練
- 【3回目避難訓練】黒潮町一斉の避難訓練
- 【4回目避難訓練】部活時における避難訓練
- 【5回目避難訓練】火災時における避難訓練
- 【6回目避難訓練】朝練習時における避難訓練

避難訓練前後に行う知識重視の防災教育
(一つ一つが繋がらない点の防災教育)

これまで防災教育の成果と課題

【成果】

- (1) 避難訓練の回数を重ねるほど、避難に関する意識が高まった。
(町内一斉避難訓練への参加呼びかけ)
- (2) 保小中高において連携して避難訓練を実施することができた。(事前学習会の実施)

【課題】

- (1) 防災教育の年間計画を見直し、1~3年生までの系統的な防災学習を実施する。
- (2) 防災教育を学校として取り組むために、研究組織を確認する。

ト』と4つのグループを作って、それぞれのグループで研究していくようにしました。各学年のメンバーを4つのプロジェクトに割り振って、その中の一つで防災教育も研究していく。それで、隔週の火曜日に検証の会議を行うようにしています。

1年部、1年生からですが、まず事前に防災のアンケートで10項目をとりました。そして、自分でできる備えについて考えて、『生き延びる3日間』というテーマでやっています。そして3つ目は、『あなたは大丈夫。いざという時の地震、対策と備え』として、これらの備えについて見直して、最後に学習発表会をする。黒潮町として、保護者や地域に発信する、自分たちでまとめて発信し、地域や保護者の人にも防災をもう一回考えてもらうことを推進しているのです、大方中学校でも今年はやっています。

年間スケジュールは、テーマであり『てんでんこ』をキーワードとして、ふれて、つかんで、調べてまとめる。そして、次の年に繋げていくという流れができればいいねっていうことでやっています。

『ふれる』ということで、先ほどの小・中・高の避難訓練の後に、自衛隊の方に来て頂いて、被災地での作業についての大変さやボランティアは大事なんだよっていうことを話して頂いて、1年から3年生までに考えるっていう時間をとりました。

次に『つかむ』ということで、自分でできる備え、そしてこれからも津波について見直すということで、先ほどの防災訓練と講演の後にやりました。避難訓練とか自衛隊の方のお話なんかを振り返って、「こういうことを考えていこう」ということで、始まっていきます。そして、それを始める時に、アンケートを家庭に持って帰ってもらって、家族会議を開いて記入してもらいました。

そして、実際に自分たちで考えた課題が、本当にそんなことでいいのかを調べるということでフィールドワークをしました。自分たちで実際に歩いて防災について自分たちが調べて、それをまとめました。黒潮町の中にある備蓄倉庫やコンビニの前にあるAEDのマークなどを自分たちは見逃していたんじゃないかとか、例えば備蓄倉庫の中身はどんな物があって、それが本当にいいのかとか、自分たちが考

3.防災教育の組織について

大方中学校4つのプロジェクトの組織

夢実現	学び	優しさ	イベント
一人ひとりの夢が実現する大方中学校【防災教育・人権教育・キャリア教育の研究推進】	学び合う授業で将来に生きる学力をつける大方中学校	社会に通用するマナーを身につける大方中学校	かけがえのない仲間との思い出を重ねる大方中学校
キャップA (メンバー4人)	キャップB (メンバー6人)	キャップC (メンバー6人)	キャップD (メンバー6人)

【各学年部のメンバーを4つのプロジェクトに割振る】

隔週の火曜日に検証の会議
【各リーダー4人+主幹教諭、教頭、校長】

4.各学年の具体的取り組み

1年部会の取り組み(地域を知って、自分の命を守る)

- ①事前防災アンケート 10項目チェック
- ②自分でできる備えについて考えよう。
「生き延びる3日間」
- ③あなたは大丈夫?いざという時の地震対策&備え
- ④これからの備えについて見直す
- ⑤学習発表会(保護者へ発信)

防災教育(1年生) 28年度の流れ

【防災教育1年生】
テーマ「てんでんこ」をキーワードに震災について考える 全20時間

学期	月	学習過程	学習内容	体験活動
1学期	10月	ふれる	避難訓練を体験し、その後の講演を聞くことで、震災について考える。	・保・小・中・高合同避難訓練 ・震災についての講話
		つかむ	震災の講話を通して、再たことを整理する中で、自分たちの生活の中の課題は何か考える。	・学習グループでの話し合い
		調べる	各地区の避難場所についてフィールドワークし、危険な箇所や課題について調査する。アンケートを行い、防災意識を調査する。	・各地区の避難場所についてのフィールドワーク ・震災のアンケート調査
2学期	11月	まとめる	フィールドワークを通して考えたこと、学んだことをまとめる。	・各組でまとめて意見交流をする。
		つながる	協学旅行における防災について新たな課題を見つける。	・防災について図書館で情報収集する。 ・グループ別で調べる。

防災教育(1年生)「調べる」

調査票のやり方は、1-6の□や○を○×で記入してください。

1	地震の震度の基礎知識がある。
2	避難場所や避難方法の理解が深い。
3	複数の避難経路の理解が深い。
4	災害時の連絡(守るべき連絡先を知っている、携帯電話やスマホの充電方法、避難場所の場所を知っている)の理解が深い。
5	備蓄品(食料、飲料水)の理解が深い。
6	備蓄品(食料、飲料水)の理解が深い。
7	家族や親戚の連絡先が整理されている。
8	防災グッズの理解が深い(防災グッズの種類、防災グッズの重要性)の理解が深い。
9	避難所での生活(入浴、ベッド)の理解が深い。
10	被災地への支援(物資の寄付、義援金の募集)の理解が深い。

えた課題で調べていきました。そして、それをまとめ、最終的にしっかり地域の人とか保護者に6月の参観日のときに発表しました。校長が学習発表会として位置付けて参観日にやって、地域の方は少ないんですが、家庭の保護者、地域の方に発表することにしました。地域に返していくということです。

そして、『まとめる』ということで、うちは新聞にまとめることもやっています。A3サイズの新聞にまとめることを個人で、それぞれ皆がやりました。能力差があって、放課後とかも使うことになりましたが、とにかく全員にやらそうということで1年部は今仕上げていて、これを文化祭に掲示することになっています。

次は2年生の取り組みです。防災クイズを高知新聞の中からとってきて、安政の大地震の石碑をフィールドワークしました。そして、地震が起きた後どういふふうに分たちが行動したらいいかについて、ワークショップを行いました。黒潮町では、先生方や地域の方もやっているんですが、それを子どもたちにやってもらいました。ここまでが1学期です。2学期からは課題について調査して、まとめて、防災新聞にまとめて文化祭で発表という流れでやっています。

2年生も、ふれる、つかんで、調べて、まとめて繋げるっていう形で、今年2年生は修学旅行が沖縄だったんですが、来年は関西に変わるっていうことになっています。1年生から2年生は修学旅行に繋がっているということで、黒潮町の防災に強いまちづくりに、どうすればなるかっていうことを考えさせるということに繋がっていきます。

黒板に書いていますが、クイズ、フィールドワーク、ワークショップが1学期。2学期にはこういうふうにするよっていう形を示しています。2年生はいろんな支援を必要とする生徒がいますので、こういうふうな先を見越してというか、防災教育ではこういうふうにするよっていうことを皆にわかってもらって進めるということをやっています。

3年生は『ふれる』、『つかむ』、『調べる』は、実は職場体験の時にやりたかったんですが、計画が遅



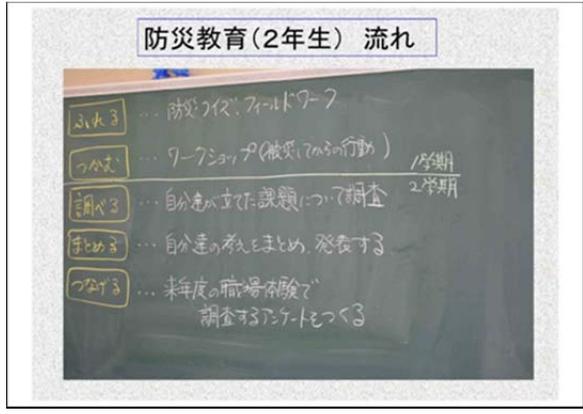
4.各学年の具体的取り組み

2年部会の取り組み(過去の南海大地震に学ぶ)

- ①防災クイズ
- ②安政の大地震の石碑(フィールドワーク)
巨大地震がおきた後の予想される状況と自分の命を守るための行動(ワークショップ)
- ③それぞれの課題について調査する
- ④防災新聞にまとめる
- ⑤文化祭で発表(保護者・地域へ発信)

防災教育(2年生) 28年度の流れ

学年	月	学習過程	学習内容	体験活動
1学期	5月	ふれる-	避難訓練を体験し、その後の訓練を聞くことで、震災について考える。	保・小・中・高合同避難訓練・震災についての課題
	7月	ふれる-	安政の大地震の石碑を見学し、震災について考える。	安政の大地震の石碑についてのフィールドワーク
2学期	7月	つかむ-	安政の大地震の課題を通して、得たことを整理し、課題を考える。	黒潮町の震災についての課題を考える。(グループ学習)
	11月	調べる-	自分たちが立てた課題について、安政・昭和の南海大地震の文獻を調査し、自分たちの立てた仮説が正しいか確認する。	文獻による調べ学習
3学期	4月	まとめる-	聞き取り学習を通して考えたこと、学んだことをまとめ、大震災への準備で何が必要かまとめる。	各組でまとめて意見交換をする。
	5月	つなげる-	学習した内容から黒潮町を防災に強い町にするためにどうすればいいかを考える。	調べ学習のグループで考える・発表する。【来年度の職場体験につなげる】



くて3年生はあまりできていません。

課題として、防災教育を総合的な学習に位置付けてやりたいといっていますが、防災と人権とキャリアをトータルで考える。防災は防災、人権は人権、キャリアはキャリアというように、それぞれがバラバラという形ではなくて、1年生はこんな感じ、2年生はこんな感じ、3年はこんな感じでやって全体として、こういうふうにやるという形がいい。そこで、皆さんは、総合的な学習を含めて、防災をどういうふうにやっているかをお聞きしたいと思ってここで提示しました。先ほど『新庄地震学』について報告して頂きましたが、自分たちも学校に文化として根付く防災教育を作って、黒潮町にこれからはずっとやっていきたいと考えています。

最後に『てんでんこ』です。自分自身が確実に避難して戻らないこと。それを自分たちがどこにいても、将来、黒潮町に全員がいるっていうわけじゃないので、どこにいたとしても、それができるようになるために、自分で課題を調べて、その課題について考えられるようになる。最終的に3年生の終わりには、犠牲者ゼロの町黒潮町ですが、どこにいても自分が犠牲者にならないように、自分はどんな行動をすべきかを判断できる子どもたちに育てたいと思い、大方中学校ではやっています。

以上です。ありがとうございました。

防災教育(3年生) 28年度の流れ				
学期	月	学習過程	研修活動	
一	5	(2) 研修	避難訓練を体験し、その他の講義を聞くことで、震災について考える。	・保・小・中・高合同避難訓練 ・震災についての講話 ・(自衛隊の方の体験談)
一	6	つかむ (学習する)	震災の課題を通して、清たことを整理する中で、黒潮町の産業の課題を考える。「震災に強い町づくり」をキーワードにする。	・学習グループでの話し合いをする。
一	7	伝える (確かめる)	職場体験をし、その中で「震災に強い町づくり」について調査する。職場体験をしていただいた方にアンケート調査を行い、防災意識を調査する。	・職場体験での聞き取り学習 ・防災についてのアンケート調査
二	9	まとめる (5) 研修	職場体験を通して考えたこと、学んだことをまとめる。	・各組でまとめて意見交流をする。
二	10	つなげる (3) 研修	「震災に強い町づくり」について学んだことを将来の生き方に活かす。	・将来震災があったときに自分に対処できるか考える。

6 今後の『防災教育』の課題

防災教育をどのようにして総合的な学習に位置づけるか？

- ・学習指導要領の総合的な学習の目標が達成されるための年間計画の見直しをする。
- ・防災教育、人権教育、キャリア教育をトータルで考え、従来の形から脱却する必要がある。

・「新庄地震学」のように子どもたちがいきいきと活動する場面を仕組み、学校に文化として根付く防災教育の流れを作りあげること。

大方中学校の防災教育で目指すこと

命を守る「津波てんでんこ」

- (1) それぞれの場所で、それぞれが確実に避難し
- (2) そのことを信じて「自分自身が確実に避難する」こと
- (3) そして、一度避難したら絶対に元に「戻らない」こと

⇒ 「犠牲者ゼロの町、黒潮町」
(黒潮町長の宣言)